

2022年度 第2四半期決算 電話会議 資料

2022年11月18日（金）

MS&AD

INSURANCE GROUP

本日のポイント

2022年度第2四半期 業績

- 正味収入保険料は、国内損保子会社、海外保険子会社ともに増収となり、前年同期比1,669億円、8.7%の増収。
- 中間純利益は、自然災害ロス、新型コロナ関連ロス、ロシア・ウクライナ関連ロス、海外の資産運用損などのマイナス要因が重なり、△1,584億円減益の△335億円。グループ修正利益は△1,762億円減益の74億円。

2022年度 業績予想

- 国内では、自然災害および新型コロナ関連ロスが、当初予想額を上回る見通しとなったこと、海外では、北米ハリケーン・イアンなどの自然災害および金融マーケット変動の影響を受けた資産運用損が、当初予想額を上回る見通しとなったことを主因に、当期純利益は年初予想比△1,000億円の1,400億円。
- グループ修正利益は、年初予想比△1,300億円の1,700億円。

株主還元

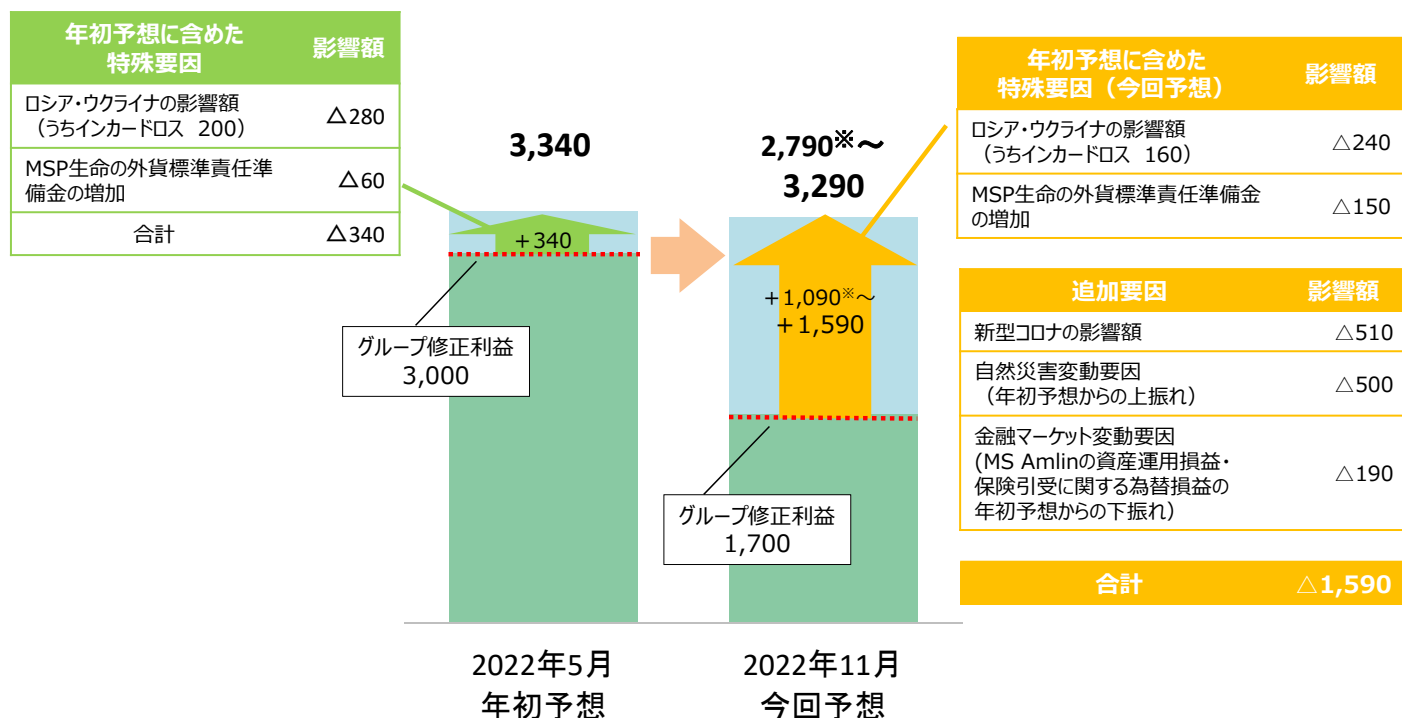
- 中間配当は前期比17円50銭増配の100円の実施を決定。
- 2022年度決算分の年間配当予想は前期比20円増配の200円。

本日のポイント 特殊要因除きの利益の状況

- ・グループ修正利益は国内外で多発した自然災害や金融マーケット変動の影響などの特殊要因増加を主因に下方修正。
- ・一方、特殊要因を除く利益は計画通り進捗しており、グループの基礎的な「稼ぐ力」を強化する取組みは着実に進捗している。

特殊要因除きのグループ修正利益

(億円)



※自然災害変動分を特殊要因としない場合

全体目次

2022年度第2四半期決算の概要

グループ連結	P6-14
国内損害保険会社	P15-17
国内生命保険会社	P18-19
海外保険子会社	P20
(参考) 国内損害保険会社主要2社の業績概要	P21-23
(参考) MS Amlin 業績概要	P24
(参考) ESRの状況	P25

2022年度業績予想

グループ連結	P26-30
今回業績予想の主な前提	P31
国内損害保険会社	P32-33
国内生命保険会社	P34-35
海外保険子会社	P36
(参考) 国内損害保険会社主要2社の概要	P37-38
(参考) MS Amlin 業績予想	P39

※決算データにつきましては、当社ホームページに掲載しています「国内損保決算データ集(Excelファイル)」もご参照ください。

2022年度 第2四半期決算の概要

グループ連結（2022年度第2四半期）①業績の概要 1（トップライン）

損保子会社

(億円)

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	2022年度	
			前年同期比	増収率
元受正味保険料(除く収入積立保険料)	20,276	21,979	1,702	8.4%
正味収入保険料	19,285	20,954	1,669	8.7%
三井住友海上	8,173	8,570	397	4.9%
あいおいニッセイ同和損保	6,627	6,955	327	4.9%
三井ダイレクト損保	174	170	△ 4	△ 2.7%
海外保険子会社	4,309	5,256	946	22.0%

生保子会社

(億円)

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	2022年度	
			前年同期比	増収率
保険料(グロス収入保険料)*	6,654	7,724	1,070	16.1%
三井住友海上あいおい生命	2,496	2,437	△ 59	△ 2.4%
三井住友海上プライマリー生命	4,157	5,286	1,129	27.2%
生命保険料	2,650	△ 168	△ 2,819	△ 106.3%

* 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

グループ連結(2022年度第2四半期)①業績の概要 1(トップライン)

(損保子会社[国内・海外])

- ・正味収入保険料は、国内損保子会社、海外保険子会社ともに増収となり、前年同期比1,669億円、8.7%の増収。
- ・国内損保主要2社計の正味収入保険料は、自賠責保険が減収となったものの、火災保険が大きく増収したことなどにより724億円、4.9%の増収。
 火災保険は2022年10月改定前の契約増加等により670億円の増収。
 海上保険は資源価格の高騰などによる貿易量の増加により89億円の増収。
 自動車保険は新車販売の低迷の影響もあり45億円の増収にとどまる。
 自賠責保険は前年の料率改定影響が残り△108億円の減収。
- ・海外保険子会社の正味収入保険料は、MS Amlinが増収した欧州をはじめ、各地域ともに増収したことや為替影響により946億円の増収。為替影響を除くベースでは569億円の増収。

(国内生保子会社)

- ・MSA生命:18ページを参照。MSP生命:19ページを参照。

グループ連結(2022年度第2四半期)①業績の概要 2(ボトムライン)

(億円)

	2021年度 第2四半期	2022年度		増減率	通期予想 (今回予想)
		第2四半期	前年同期比		
経常利益	1,821	△ 152	△ 1,974	△ 108.4%	2,200
三井住友海上	1,072	250	△ 821	△ 76.6%	1,590
あいおいニッセイ同和損保	298	△ 166	△ 464	△ 155.6%	590
三井ダイレクト損保	18	22	4	22.8%	-
三井住友海上あいおい生命	180	105	△ 75	△ 41.9%	-
三井住友海上プライマリー生命	236	149	△ 86	△ 36.8%	-
海外保険子会社	119	△ 261	△ 381	△ 319.1%	-
その他・連結調整等	△ 103	△ 251	△ 148	-	-
中間純利益 [※]	1,248	△ 335	△ 1,584	△ 126.9%	1,400
三井住友海上	822	248	△ 573	△ 69.8%	1,220
あいおいニッセイ同和損保	191	△ 154	△ 345	△ 180.9%	370
三井ダイレクト損保	14	20	5	41.1%	4
三井住友海上あいおい生命	116	60	△ 55	△ 48.1%	110
三井住友海上プライマリー生命	171	89	△ 81	△ 47.8%	150
海外保険子会社	49	△ 320	△ 370	△ 742.5%	50
その他・連結調整等	△ 116	△ 279	△ 162	-	△ 504

※連結の中間純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益。子会社の中間純利益は出資持分ベース。以下同じ。

(グループ連結)

- ・中間純利益は△1,584億円減益の△335億円。

(国内損保主要2社)

- ・保険引受利益は、国内自然災害ロス、新型コロナ関連ロス、交通量回復等に伴う自動車保険のロスの増加などのマイナス要因が重なり△1,613億円減益の△1,127億円。
- ・資産運用・その他収支は、ネット利息及び配当金収入の増加に加え、有価証券評価損が前年同期より減少したことなどにより327億円の増益。
- ・中間純利益は、△919億円減益の93億円。

(国内生保子会社)

- ・MSA生命:18ページを参照、MSP生命:19ページを参照

(海外保険子会社)

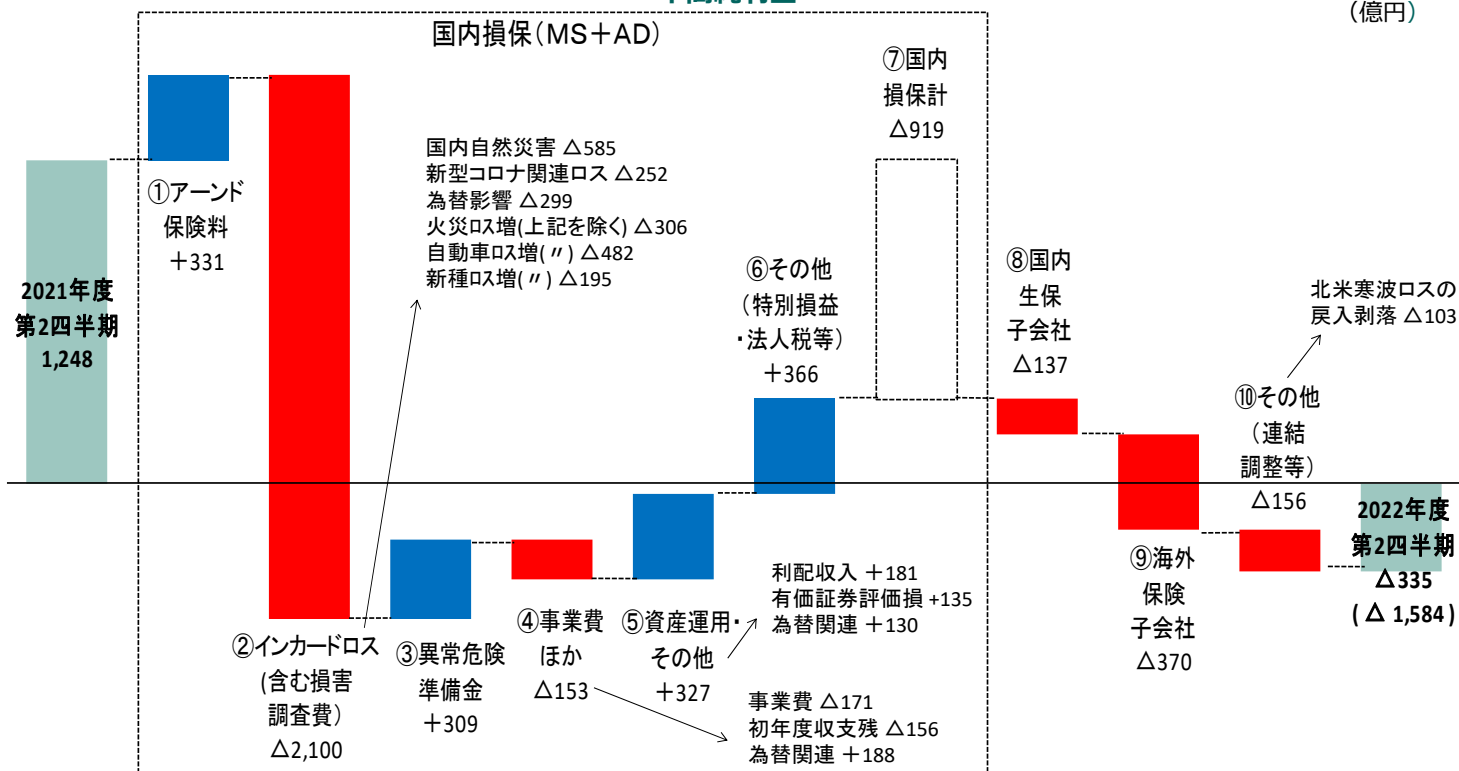
- ・海外保険子会社:20ページを参照、MS Amlin:24ページを参照

グループ連結(2022年度第2四半期)②前年同期との比較1

- ・国内損保計(⑦)は、アード保険料(①)や資産運用・その他(⑤)がプラスとなったものの、インカードロス(②)が大幅に増加したため△919億円の減益。国内生保子会社(⑧)もMSA生命の新型コロナ関連ロスやMSP生命の金利上昇による収支負担などにより△137億円の減益。海外保険子会社(⑨)もロシア・ウクライナ関連ロス、新型コロナ関連ロス、資産運用損などにより△370億円の減益。以上より、中間純利益は△1,584億円の減益。

中間純利益

(億円)



グループ連結（2022年度第2四半期）②前期との比較 2

中間純利益の内訳

(億円)

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比
中間純利益	1,248	△ 335	△ 1,584
国内損保 ^{※1} 保険引受利益(除く家計地震・自賠償)	486	△ 1,127	△ 1,613
アード保険料 ①	12,818	13,149	331
インカードロス(含む損害調査費) ②	△ 7,548	△ 9,649	△ 2,100
異常危険準備金損益 ③	△ 576	△ 267	309
事業費ほか ^{※2} ④	△ 4,207	△ 4,360	△ 153
資産運用・その他 ⑤	884	1,212	327
その他(特別損益・法人税等) ⑥	△ 357	9	366
国内損保計 ⑦	1,013	93	△ 919
国内生保子会社 ⑧	287	149	△ 137
海外保険子会社 ⑨	49	△ 320	△ 370
海外保険子会社(現地決算期ベース) ⑩	365	△ 60	△ 425
自然災害追加影響額 ⑪	△ 315	△ 259	55
その他(連結調整等) ⑫	△ 102	△ 259	△ 156

※1 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計

※2 「事業費ほか」には、初年度収支残や自然災害責準、為替差損益などが含まれる

グループ連結（2022年度第2四半期）③グループ修正利益

・国内損保事業および海外事業の減益を主因に△1,762億円の減益。

(億円)

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比		2022年度通期 (今回予想)
グループ修正利益 ^{※1}	1,837	74	△ 1,762		1,700
国内損保事業	1,386	270	△ 1,116		1,390
国内生保事業	296	166	△ 130		280
海外事業	138	△ 362	△ 501		10
金融サービス事業/リスク関連事業	14	0	△ 14		20

※1「グループ修正利益」の定義は最終ページご参照。なお「グループ修正ROE」は年度末に開示。

(参考)

$$\begin{array}{c} \text{グループ} \\ \text{修正利益} \\ 74 \end{array} = \begin{array}{c} \text{連結} \\ \text{中間純利益} \\ \Delta 335 \end{array} + \begin{array}{c} \text{異常危険準備金等} \\ \text{繰入・戻入額}^{\ast 2} \\ 218 \end{array} - \begin{array}{c} \text{その他} \\ \text{特殊要因}^{\ast 3} \\ \Delta 192 \end{array} + \begin{array}{c} \text{非連結} \\ \text{グループ会社} \\ \text{持分利益} \\ \Delta 0 \end{array}$$

※2 繰入の場合は加算、戻入の場合は減算

※3 のれん償却等△142

グループ連結（2022年度第2四半期）④当年度発生自然災害ロス

- ・国内の自然災害ロスは、6月雹災や台風14号などにより899億円（うち火災保険623億円、自動車保険260億円）。
- ・海外の自然災害ロスは、北米ハリケーン・イアンなどにより540億円。

国内自然災害の影響

(億円)

	インカードロス			インカードロス 通期予想 (今回予想)	(参考:第2四半期) 出再控除前	
	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比			
三井住友海上	186	494	308	575	6月雹災	394
あいおいニッセイ同和損保	127	404	277	475	台風14号	415
合計	313	899	585	1,050	台風15号	217

海外自然災害の影響

	インカードロス			インカードロス 通期予想 (今回予想)	(参考:第2四半期)	
	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比			
あいおいニッセイ同和損保	218	204	△ 13	293	北米ハリケーン	
MS Amlin	96	56	△ 40	407	イアン	442
上記以外(三井住友海上、海外子会社、連結調整 ^{※1})	△ 69	13	83	17		
海外子会社の自然災害追加計上影響額 ^{※2}	324	265	△ 59	-		
合計	570	540	△ 30	717		

※1 連結調整は、2020年度に追加計上した2021年2月北米寒波に係る損害見込額の戻入(2021年度第2四半期△120億円)。

※2 2022年度第2四半期の金額は、海外保険子会社(12月決算)の2022年度第3四半期に発生した北米ハリケーン・イアンに係る追加計上額(うちMS Amlinは261億円)。

※ 海外自然災害の集計範囲は社内管理ベース。

グループ連結（2022年度第2四半期）⑤新型コロナ関連保険金・給付金

- ・国内損保子会社の新型コロナ関連ロス等は292億円、国内生保子会社は113億円、海外保険子会社はMSIG明台(台湾現法)で90億円。

主な子会社の新型コロナ関連保険金・給付金(含む支払備金)

(億円)

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比	通期予想 (今回予想)
(国内損保子会社)				
三井住友海上	24	206	182	222
あいおいニッセイ同和損保	16	86	69	93
小計	40	292	252	315
(国内生保子会社)				
三井住友海上あいおい生命	13	113	100	173
(海外保険子会社)				
MSIG明台(台湾現法)	-	90	90	200
合計	53	495	442	688

国内損害保険会社（2022年度第2四半期）①主要2社の業績概要 1

- ・ 保険引受利益（異常危険準備金反映前）は、国内自然災害ロス、新型コロナ関連ロス、交通量回復に伴う自動車保険のロスの増加などにより△1,922億円減益の△860億円。
- ・ 保険引受利益は、異常危険準備金の取崩が増加したことから△1,613億円の減益。

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
正味収入保険料 ^{※1}	15,526	724	8,570	397	6,955	327
アーンド保険料 ^{※2、※3}	13,149	331	7,335	224	5,814	106
インカードロス(含む損害調査費) ^{※2}	(-)	9,649	5,291	1,151	4,357	949
保険引受に係る事業費 ^{※2}	(-)	4,621	2,507	97	2,114	74
諸手数料及び集金費 ^{※2}	3,005	196	1,586	91	1,418	104
営業費及び一般管理費 ^{※2}	1,616	△ 24	920	5	695	△ 30
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	△ 860	△ 1,922	△ 394	△ 1,158	△ 465	△ 764
異常危険準備金損益	△ 267	309	△ 246	82	△ 20	226
保険引受利益	△ 1,127	△ 1,613	△ 640	△ 1,075	△ 486	△ 538
EI損害率 ^{※2}	73.4%	14.5pt	72.1%	13.9pt	75.0%	15.3pt
正味損害率 ^{※1}	59.3%	3.3pt	57.5%	2.3pt	61.5%	4.6pt
正味事業費率 ^{※1}	32.5%	△ 0.3pt	31.4%	△ 0.4pt	33.8%	△ 0.4pt
コンバインド・レシオ ^{※1}	91.8%	3.0pt	88.9%	1.9pt	95.3%	4.2pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※3 アーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

国内損害保険会社（2022年度第2四半期）①主要2社の業績概要 2

- ・ 資産運用・その他収支は、ネット利息及び配当金収入の増加、有価証券評価損の減少を主因に327億円増加。

(億円)

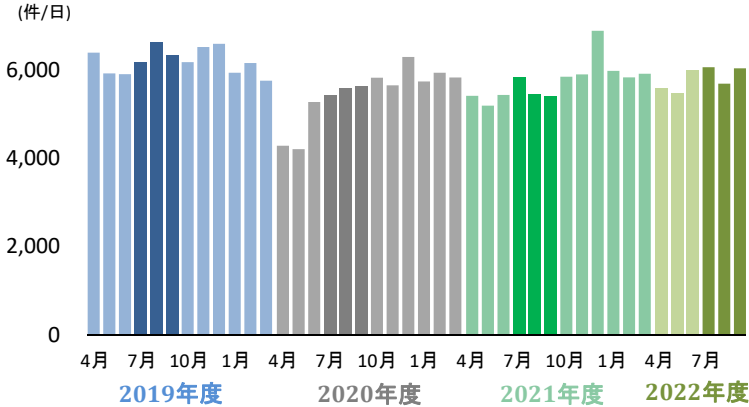
	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
保険引受利益	△ 1,127	△ 1,613	△ 640	△ 1,075	△ 486	△ 538
ネット利息及び配当金収入	909	181	668	142	240	39
有価証券売却損益	477	10	297	△ 74	179	85
有価証券評価損 (-)	88	△ 135	65	△ 129	23	△ 5
資産運用・その他収支	1,212	327	891	254	320	73
経常利益	84	△ 1,286	250	△ 821	△ 166	△ 464
特別損益	△ 104	△ 34	△ 31	△ 5	△ 72	△ 29
税引前中間純利益	△ 19	△ 1,321	219	△ 826	△ 238	△ 494
法人税等	△ 113	△ 401	△ 28	△ 252	△ 84	△ 149
中間純利益	93	△ 919	248	△ 573	△ 154	△ 345
(参考) 政策株式売却額	799	249				

国内損害保険会社（2022年度第2四半期）②自動車保険の状況

- ・事故件数は、交通量増加により、9月末累計で前年同期比7.2%の増加。ただし、2019年度同期比では△5.4%の減少。
- ・EI損害率は9.9pt上昇の63.5%。自然災害を除くベースでは6.7pt上昇の59.9%。

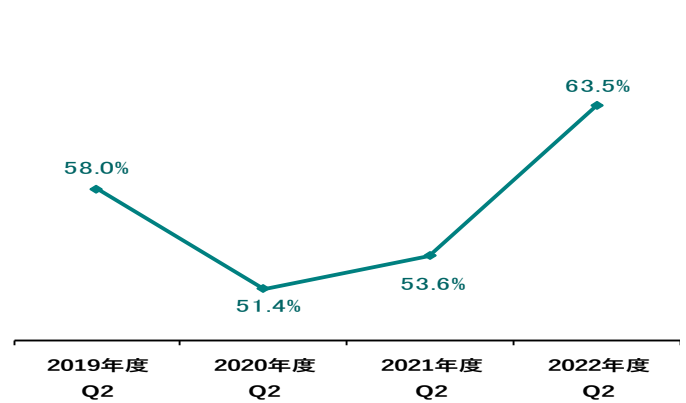
事故件数の推移（国内、1日あたり、除く自然災害）

（MS・AD 2社単純合算ベース）



EI 損害率の推移（含む損害調査費）

（MS・AD 2社単純合算ベース）



保険料・保険金

三井住友海上

<国内・営業ベース>			
	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	△ 0.9%	△ 0.2%	△ 1.2%
<国内>			
	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+2.2%	+2.6%	

あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>			
	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	△ 0.6%	+0.6%	△ 0.1%
<国内>			
	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+2.4%	+1.0%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース（4-9月）の対前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2022年3月末過去1年間の保険金単価に対する、2022年9月末過去1年間の保険金単価の増減を表示

※ EI損害率算出対象期間は、各年度の4-9月

国内生命保険会社 三井住友海上あいおい生命（2022年度第2四半期）業績概要

- ・新契約高は、収入保障保険の販売が減少したこと等により前年同期比△17.0%。
- ・中間純利益は、新型コロナ第6,7波影響による給付金の増加等により△55億円の減益。

三井住友海上あいおい生命

（億円）

	2021年度		2022年度	
	第2四半期	第2四半期	第2四半期	第2四半期
新契約高（個人合計）	9,004	7,474	△ 1,529	△ 17.0%
新契約年換算保険料	138	133	△ 4	△ 3.6%
うち 第三分野	73	61	△ 11	△ 16.1%
保有契約高（個人合計）	（期首） 238,477	236,063	（期首比） △ 2,414	△ 1.0%
保有契約年換算保険料	（期首） 4,438	4,426	（期首比） △ 12	△ 0.3%
うち 第三分野	（期首） 1,524	1,547	（期首比） 23	1.5%
保険料（グロス収入保険料）	2,496	2,437	△ 59	△ 2.4%
経常利益	180	105	△ 75	△ 41.9%
特別損益	△ 6	△ 6	△ 0	-
中間純利益	116	60	△ 55	△ 48.1%
基礎利益 ^{※1}	164	86	△ 77	△ 47.3%
EEV ^{※2}	（期首） 9,236	8,747	（期首比） △ 489	
参考：EEV(UFR適用した場合)	（期首） 9,976	9,145	（期首比） △ 830	

※1 2022年度第1四半期から、新基準に基づき開示方法を変更。これに伴い、2021年度第2四半期の数値も遡及して新基準に基づいた数値で記載。

※2 第2四半期のEEVは、一部簡易な計算による試算値。また、第三者機関の検証は受けていない。

国内生命保険会社 三井住友海上プライマリー生命（2022年度第2四半期）業績概要

- ・ グロス収入保険料は、競争力の高い商品の開発、外貨金利の上昇等をふまえた積極的な営業活動により27.2%増収。
- ・ 中間純利益は、金利上昇により保有債券等から多額の評価損が生じたことや外貨建て保険の標準責任準備金の繰入負担を主因に、△81億円減益の89億円。

三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比	増減率
			(期首比)	
新契約高（個人合計）	4,179	5,471	1,291	30.9%
保有契約高（個人合計）	(期首) 68,036	68,643	(期首比) 607	0.9%
保険料(グロス収入保険料)	4,157	5,286	1,129	27.2%
経常利益	236	149	△ 86	△ 36.8%
特別損益	-	△ 20	△ 20	-
価格変動準備金繰入・戻入	-	△ 20	△ 20	-
中間純利益	171	89	△ 81	△ 47.8%

金利・為替影響

(億円)

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期
金利影響	13	△ 704
為替影響	△ 11	392
合計*	1	△ 312

※ 有価証券売却損益を含む(2021年度第2四半期 +57億円、2022年度第2四半期 △63億円)

海外保険子会社（2022年度第2四半期）業績概要

- ・ 正味収入保険料は、MS Amlinが増収した欧州をはじめ、各地域ともに増収したことに加え、為替影響もあり946億円の増収。
- ・ 中間純利益は、欧州の△288億円の減益を主因に△370億円の減益。MS AmlinについてはP24を参照。

海外保険子会社

(億円)

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比	増減率
正味収入保険料	4,309	5,256	946	22.0%
アジア	887	1,088	201	22.7%
欧州	3,202	3,848	645	20.2%
米州	219	319	99	45.1%
中間純利益	49	△ 320	△ 370	△ 742.5%
現地決算期ベース利益	365	△ 60	△ 425	△ 116.6%
アジア	157	93	△ 64	△ 40.7%
欧州	73	△ 214	△ 288	△ 391.2%
米州	29	2	△ 26	△ 91.0%
海外生保	104	58	△ 46	△ 44.5%
自然災害追加計上影響額*	△ 315	△ 259	55	-

※ 海外保険子会社(12月決算)の第3四半期に発生した次の自然災害に係る追加計上による税引後利益影響額。
2021年度第2四半期:2021年7月欧州洪水および8月北米ハリケーン・アイダ、2022年度第2四半期:2022年9月北米ハリケーン・イアン

(ご参考) 国内損害保険会社 (2022年度第2四半期) 主要2社の業績概要 1

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	増収率	2022年度 第2四半期	増収率	2022年度 第2四半期	増収率
火災	2,262	2,932	29.6%	1,563	27.3%	1,368	32.5%
海上	341	430	26.1%	396	30.3%	33	△8.5%
傷害	1,092	1,127	3.3%	807	3.1%	320	3.6%
自動車	7,228	7,273	0.6%	3,443	△0.4%	3,830	1.6%
自賠責	1,477	1,369	△7.3%	706	△7.8%	663	△6.8%
その他	2,399	2,392	△0.3%	1,653	1.3%	739	△3.6%
合計	14,801	15,526	4.9%	8,570	4.9%	6,955	4.9%
除く家計地震・自賠責	13,321	14,155	6.3%	7,863	6.2%	6,292	6.4%

(ご参考) 国内損害保険会社 (2022年度第2四半期) 主要2社の業績概要 2

EI損害率 (2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比
火災 (除く家計地震)	77.3%	106.8%	29.5pt	53.2%	71.0%	17.8pt
海上	65.0%	63.6%	△1.4pt	64.9%	63.4%	△1.5pt
傷害	54.0%	70.0%	16.0pt	54.0%	70.0%	16.0pt
自動車	53.6%	63.5%	9.9pt	53.2%	59.9%	6.7pt
その他	59.1%	73.3%	14.2pt	58.4%	72.6%	14.2pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	58.9%	73.4%	14.5pt	54.4%	64.9%	10.5pt

※ インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したものを示す

(ご参考) 国内損害保険会社 (2022年度第2四半期) 主要2社の業績概要 3

EI損害率 (三井住友海上 (単体)、あいおいニッセイ同和損保 (単体))

	EI損害率				EI損害率 (除く自然災害影響)			
	三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ同和損保 (単体)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ同和損保 (単体)	
		前期比		前期比		前期比		前期比
火災 (除く家計地震)	101.8%	31.8pt	113.0%	27.0pt	73.1%	20.4pt	68.4%	14.5pt
海上	61.3%	△3.2pt	88.6%	20.1pt	61.0%	△3.5pt	88.6%	20.1pt
傷害	70.8%	15.8pt	68.1%	16.4pt	70.8%	15.8pt	68.1%	16.4pt
自動車	63.9%	9.1pt	63.2%	10.7pt	60.4%	5.9pt	59.5%	7.5pt
その他	68.6%	11.5pt	83.7%	20.3pt	67.8%	11.4pt	83.2%	20.5pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	72.1%	13.9pt	75.0%	15.3pt	65.2%	10.2pt	64.5%	10.8pt

※ インカードロス = 正味支払保険金 + 損害調査費 + 支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したもの

(ご参考) MS Amlin 2022年度第2四半期(2022年1-6月期)業績概要※1

- ・中間純利益は、ロシアウクライナ関連ロス△97百万ポンド、資産運用損失△108百万ポンドを主因に△131百万ポンド。
- ・グループ修正利益は、ハリケーン・イアン見込ロス△157百万ポンドを第2四半期に追加計上したことから△286百万ポンド。

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	(百万ポンド)
			前年同期比
正味収入保険料	1,922	2,192	270
アード保険料	1,294	1,377	83
インカードロス(含む損害調査費)	830	942	112
手数料・社費	457	487	30
保険引受利益	1	4	3
資産運用損益※2	66	△108	△174
その他損益※3	△38	△31	7
中間純利益	33	△131	△164
グループ修正利益※4	△101	△286	△185
EI 損害率※5	64.1%	68.4%	4.3pt
EI 事業費率※5	35.8%	31.3%	△4.5pt
EI コンバインド・レシオ※5	99.9%	99.7%	△0.2pt

※1 現地管理ベース

※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※3 保険事業会社以外で生じる経費等

※4 2021年度実績は、2020年度に連結決算上追加計上した北米寒波ロス影響の戻入+69百万ポンド、第2四半期に追加計上した欧州洪水影響△87百万ポンド、北米ハリケーン影響△116百万ポンドを反映。2022年度実績は、第2四半期に追加計上した北米ハリケーン(イアン)影響△157百万ポンドを反映。

※5 EI 事業費率およびEI コンバインド・レシオは、現地管理に合わせて保険引受利益に含まれる為替差損益を含めて算出。EI損害率およびEI コンバインド・レシオには、2021年度、2022年度とも各第2四半期に追加計上した大口自然災害影響は含まれていない。

ロシア・ウクライナ関連ロスの影響を除いた場合 (百万ポンド)

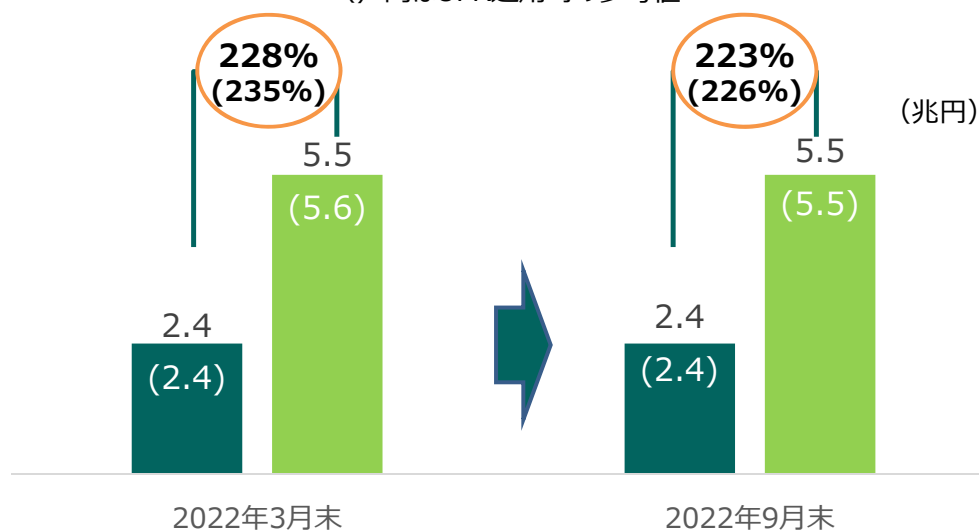
	2022年度	
	第2四半期	前年同期比
EI 損害率※5	61.4%	△2.7pt
EI 事業費率※5	31.3%	△4.5pt
EI コンバインド・レシオ※5	92.7%	△7.2pt
保険引受利益	101	100

(ご参考) ESRの状況

ESR^(注1)

■ 統合リスク量^(注2) ■ 時価純資産

() 内はUFR適用時の参考値



<ESRの主な増減要因> (2022年3月末対比)

ESRは2022年3月末から△5pt低下。

- ✓ 内部留保の減少や市場環境の変動等により低下。

<市場環境>

	2022年 3月末	2022年 9月末	対2022年 3月末比
日経平均株価	27,821円	25,937円	△1,884円
国債30年金利	0.94%	1.39%	+0.45pt
為替 (ドル円)	122円	145円	+23円

(注1) ESR : エコノミック・ソルベンシー・レシオ (= 時価純資産 ÷ 統合リスク量)

(注2) 統合リスク量 : 信頼水準99.5%のVaR (Value at Risk) でリスク量を計測。

2022年度業績予想

グループ連結（2022年度業績予想）①概要1（トップライン）

- ・損保子会社の正味収入保険料は、足元の業績および為替の状況を勘案し、年初予想比1,170億円引上げの3兆8,700億円。
- ・国内生保のグロス収入保険料は、足元の業績を勘案し、年初予想比990億円引上げの1兆3,900億円。

損保子会社

(億円)

	2021年度	2022年度 (年初予想)	2022年度(今回予想)			
			前期比	増収率	年初予想比	
正味収入保険料	36,090	37,530	38,700	2,609	7.2%	1,170
三井住友海上	15,793	16,170	16,320	526	3.3%	150
あいおいニッセイ同和損保	12,913	13,070	13,330	416	3.2%	260
三井ダイレクト損保	354	362	353	△ 1	△ 0.3%	△ 9
海外保険子会社	7,030	7,920	8,650	1,619	23.0%	730

生保子会社

(億円)

	2021年度	2022年度 (年初予想)	2022年度(今回予想)			
			前期比	増収率	年初予想比	
保険料(グロス収入保険料)※	13,144	12,910	13,900	755	5.7%	990
三井住友海上あいおい生命	5,019	4,910	4,900	△ 119	△ 2.4%	△ 10
三井住友海上プライマリー生命	8,124	8,000	9,000	875	10.8%	1,000
生命保険料	5,200	5,000	3,450	△ 1,750	△ 33.7%	△ 1,550

※ 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

グループ連結（2022年度業績予想）①概要2（ボトムライン）

- ・当期純利益は年初予想比△1,000億円引下げの1,400億円。
- ・国内損保会社は、自然災害および新型コロナ関連ロスの増加が主因。
- ・海外保険子会社は、北米ハリケーン・イアンなどの自然災害および金融マーケット変動の影響を受けた資産運用損益の減少が主因。

(億円)

	2021年度	2022年度 (年初予想)	2022年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
経常利益	3,904	3,500	2,200	△ 1,704	△ 1,300
三井住友海上	1,842	1,800	1,590	△ 252	△ 210
あいおいニッセイ同和損保	809	950	590	△ 219	△ 360
当期純利益※	2,627	2,400	1,400	△ 1,227	△ 1,000
三井住友海上	1,457	1,350	1,220	△ 237	△ 130
あいおいニッセイ同和損保	539	640	370	△ 169	△ 270
三井ダイレクト損保	7	0	4	△ 3	4
三井住友海上あいおい生命	210	210	110	△ 100	△ 100
三井住友海上プライマリー生命	530	150	150	△ 380	-
海外保険子会社	245	540	50	△ 195	△ 490
その他・連結調整等	△ 363	△ 490	△ 504	△ 141	△ 14
ROE(財務会計ベース)	8.3%	7.1%	4.4%	△ 3.9pt	△ 2.7pt

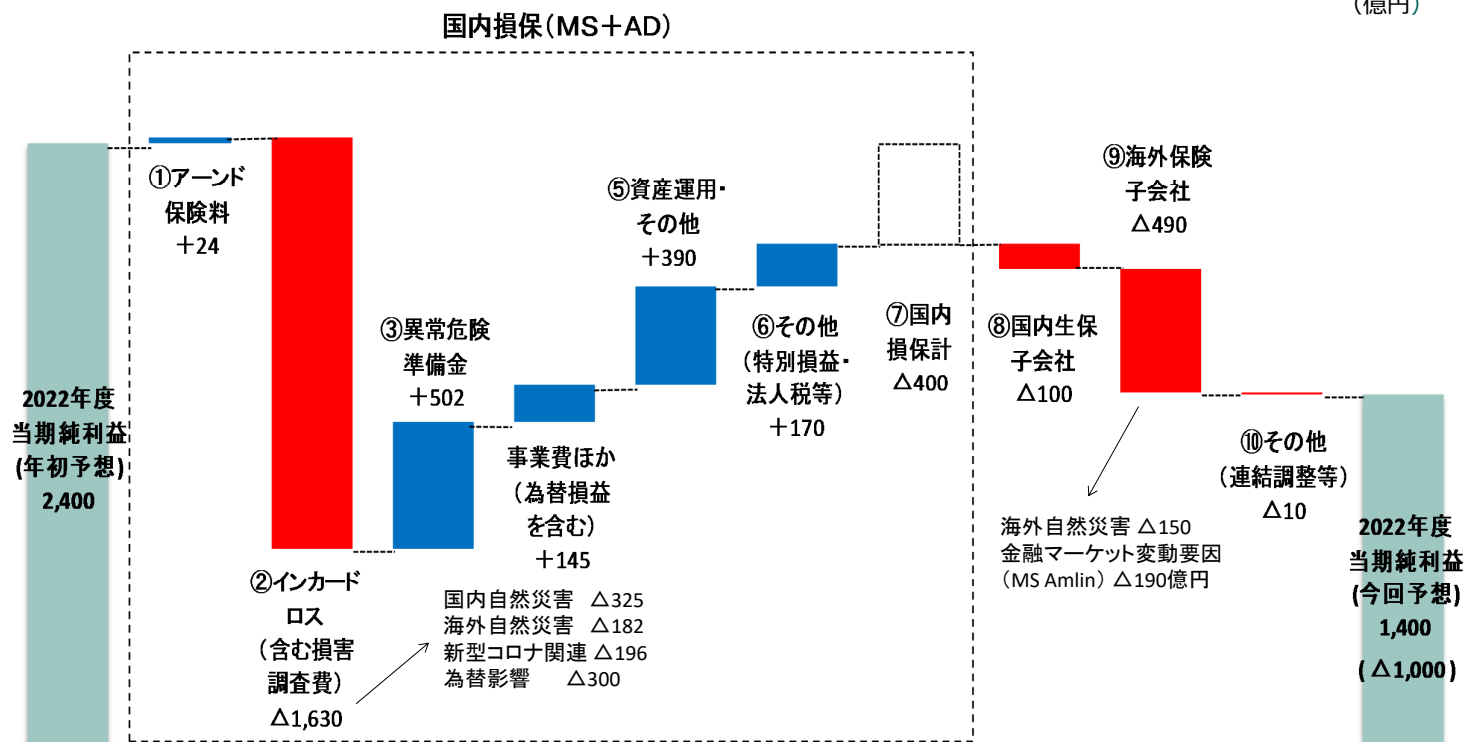
※連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。子会社の当期純利益は出資持分ベース。以下同じ。

グループ連結（2022年度業績予想）②年初予想との比較

- ・国内損保は、異常危険準備金(③)、事業費ほか(④)、資産運用・その他(⑤)などがプラス要因となったものの、インカードロス(②)の大幅増により年初予想比△400億円の引下げ。
- ・海外保険子会社(⑨)は自然災害および金融マーケット変動などにより△490億円の引下げ。

連結純利益の年初予想比増減要因

(億円)



グループ連結（2022年度業績予想）③グループ修正利益

- ・グループ修正利益は、国内損保事業、海外事業の引下げなどにより、年初予想比△1,300億円引下げの1,700億円。

(億円)

	2021年度	2022年度 (年初予想)	2022年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
グループ修正利益	3,471	3,000	1,700	△ 1,771	△ 1,300
国内損保事業	2,307	1,940	1,390	△ 917	△ 550
国内生保事業	757	380	280	△ 477	△ 100
海外事業	343	640	10	△ 333	△ 630
金融サービス事業/リスク関連事業	63	40	20	△ 43	△ 20
その他経営数値目標					
MSA生命 EEV	9,236	9,700	9,100	△ 136	△ 600
グループ修正ROE	9.5%	7.6%	4.6%	△ 4.9pt	△ 3.0pt

今回業績予想の主な前提

	三井住友海上	あいおいニッセイ同和損保
市場環境の前提	2022年9月末の水準を想定 〔 参考(2022年9月末) 日経平均 25,937円、米ドル 145円、ユーロ 142円、英ポンド 162円 〕	
国内自然災害	575億円 (+175億円)	475億円 (+150億円)
異常危険準備金	繰入 269億円 (+14億円)	350億円 (+42億円)
(火災保険)	取崩 429億円 (+105億円)	509億円 (+87億円)
	積増 △159億円 (△92億円)	△159億円 (△45億円)
異常危険準備金	繰入 220億円 (△3億円)	243億円 (△1億円)
(自動車保険)	取崩 160億円 (+117億円)	298億円 (+178億円)
	積増 60億円 (△120億円)	△55億円 (△179億円)
法定実効税率	27.9%	

※ 海外自然災害について、MS Amlinは407億円(+150億円)。

あいおいニッセイ同和損保は293億円(+168億円)。

※ ()内は年初予想比

国内損害保険会社（2022年度業績予想）主要2社の概要 1

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)			あいおいニッセイ同和損保			
		前期比	年初 予想比		前期比	年初 予想比	(単体)	前期比	年初 予想比	
正味収入保険料 ^{※1}	29,650	943	410	16,320	526	150	13,330	416	260	
アード保険料 ^{※2}	26,404	616	24	14,700	431	1	11,704	184	23	
インカードロス(含む損害調査費) ^{※2}	(-)	17,635	1,836	1,630	9,652	947	738	7,983	889	892
保険引受に係る事業費 ^{※2}	(-)	9,074	159	31	4,966	124	17	4,108	35	14
諸手数料及び集金費 ^{※2}		5,679	170	98	3,004	80	29	2,675	90	69
営業費及び一般管理費 ^{※2}		3,395	△10	△67	1,962	44	△12	1,433	△55	△55
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	△178	△1,631	△1,462	39	△820	△759	△217	△810	△703	
異常危険準備金損益	268	1,006	502	△29	420	249	297	585	253	
保険引受利益	90	△625	△960	10	△400	△510	80	△225	△450	
EI損害率 ^{※2}	66.8%	5.5pt	6.1pt	65.7%	4.7pt	5.1pt	68.2%	6.6pt	7.5pt	
正味損害率 ^{※1}	63.6%	4.2pt	0.9pt	62.1%	3.1pt	0.4pt	65.4%	5.6pt	1.3pt	
正味事業費率 ^{※1}	33.4%	△0.5pt	△0.3pt	32.7%	△0.3pt	△0.3pt	34.2%	△0.8pt	△0.5pt	
コンパインド・レシオ ^{※1}	97.0%	3.7pt	0.6pt	94.8%	2.8pt	0.1pt	99.6%	4.8pt	0.8pt	

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※ アード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

国内損害保険会社（2022年度業績予想）主要2社の概要 2

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)			あいおいニッセイ同和損保		
		前期比	年初 予想比		前期比	年初 予想比	(単体)	前期比	年初 予想比
保険引受利益	90	△ 625	△ 960	10	△ 400	△ 510	80	△ 225	△ 450
ネット利息及び配当金収入	1,546	107	82	1,078	70	25	468	36	57
有価証券売却損益	1,066	△ 14	449	728	△ 179	337	338	165	112
有価証券評価損 (一)	171	△ 173	97	104	△ 202	70	67	28	27
資産運用・その他収支	2,090	153	390	1,580	148	300	510	5	90
経常利益	2,180	△ 471	△ 570	1,590	△ 252	△ 210	590	△ 219	△ 360
特別損益	△ 155	△ 90	28	△ 43	△ 63	35	△ 112	△ 26	△ 7
当期純利益	1,590	△ 407	△ 400	1,220	△ 237	△ 130	370	△ 169	△ 270

国内生命保険会社 三井住友海上あいおい生命（2022年度業績予想）

主要項目

(億円)

	2021年度	2022年度 (年初予想)	2022年度(今回予想)		
			増減率/前期差	年初予想比	
新契約高 [※]	16,904	16,894	16,021	△5.2%	△873
新契約年換算保険料 [※]	269	309	295	9.6%	△14
保有契約高 [※]	238,477	237,133	235,441	△1.3%	△1,692
保有契約年換算保険料 [※]	4,438	4,451	4,443	0.1%	△8
保険料(グロス収入保険料)	5,019	4,910	4,900	△2.4%	△10
経常利益	390	392	251	△140	△141
当期純利益	210	210	110	△100	△100

※新契約高、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険・個人年金保険の合計

主要項目

(億円)

	2021年度	2022年度 (年初予想)	2022年度(今回予想)		
				増減率/前期比	年初予想比
新契約高	8,196	8,427	9,397	14.6%	970
保有契約高	68,036	65,460	67,670	△ 0.5%	2,210
保険料(グロス収入保険料)	8,124	8,000	9,000	875	1,000
経常利益	877	206	252	△ 626	46
当期純利益	530	150	150	△ 380	-

海外保険子会社（2022年度業績予想）

- ・ 正味収入保険料は、足元の業績および為替の状況を勘案し、年初予想比730億円増収の8,650億円
- ・ 当期純利益は、欧州の引下げを主因に、年初予想比△490億円の50億円。

海外保険子会社

(億円)

	2021年度	2022年度 (年初予想)	2022年度(今回予想)		
				前期比	年初予想比
正味収入保険料	7,030	7,920	8,650	1,619	730
アジア	1,785	2,079	2,189	403	110
欧州	4,773	5,232	5,772	997	540
米州	471	609	689	218	80
当期純利益	245	540	50	△ 195	△ 490
アジア	296	282	275	△ 21	△ 7
欧州	△ 268	56	△ 328	△ 59	△ 384
米州	43	33	14	△ 29	△ 19
海外生保	174	169	90	△ 84	△ 79

(ご参考) 国内損害保険会社（2022年度業績予想）主要2社の概要 1

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		増収率		増収率	(単体)	増収率
火災	4,957	13.6%	2,675	13.1%	2,282	14.3%
海上	810	17.2%	748	20.0%	62	△9.0%
傷害	2,114	1.5%	1,515	1.8%	599	0.8%
自動車	14,493	0.9%	6,878	△0.1%	7,615	1.8%
自賠責	2,739	△2.5%	1,408	△3.2%	1,331	△1.8%
その他	4,536	3.2%	3,095	4.0%	1,441	1.5%
合計	29,650	3.3%	16,320	3.3%	13,330	3.2%
除く家計地震・自賠責	26,908	3.9%	14,910	4.0%	11,998	3.8%

(ご参考) 国内損害保険会社（2022年度業績予想）主要2社の概要 2

EI損害率

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
火災	83.6%	3.1pt	80.6%	2.2pt	87.3%	4.4pt
海上	59.5%	△3.3pt	58.6%	△1.6pt	69.4%	△15.1pt
傷害	61.2%	6.4pt	61.6%	7.2pt	60.2%	4.5pt
自動車	63.3%	6.4pt	63.7%	6.0pt	62.9%	6.8pt
その他	64.5%	5.3pt	61.2%	2.9pt	71.5%	10.2pt
合計(除く家計地震・自賠責)	66.8%	5.5pt	65.7%	4.7pt	68.2%	6.6pt
(除く自然災害影響)	61.7%	3.4pt	61.7%	2.8pt	61.6%	4.1pt

※ インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアーンズ(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したものの

(ご参考) MS Amlin 2022年度(2022年1-12月期)業績予想※1

- ・当期純利益は、資産運用損益の悪化を主因に年初計画比△231百万ポンド引下げの△211百万ポンド。
- ・保険引受利益は、ロシア・ウクライナ、ハリケーン・イアン等の影響があるものの、11百万ポンドの黒字を見込む。
- ・資産運用損益は、金融市場の悪化（株価下落、金利上昇等）に伴う時価評価損失を主因に、△150百万ポンドを見込む。

(百万ポンド)

	2021年度	2022年度 (年初予想)	2022年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
正味収入保険料	2,814	2,903	3,217	403	314
アード保険料	2,665	2,786	2,987	322	201
インカードロス(含む損害調査費)	1,944	1,741	2,003	59	262
手数料・社費	912	1,029	1,054	142	25
保険引受利益	△ 197	16	11	208	△ 5
資産運用損益※2	101	48	△ 150	△ 251	△ 198
その他損益※3	△ 96	△ 38	△ 74	22	△ 36
当期純利益	△ 190	20	△ 211	△ 21	△ 231
グループ修正利益	△ 110	24	△ 207	△ 97	△ 231

※1 MS Amlin各社の業績予想の合算値

※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※3 保険事業会社以外で生じる経費等

主なインカードロスの見込み

(百万ポンド)

	2021年度	2022年度(今回予想)		
		前期比	年初予想比	
自然災害	296	252	△44	92
ロシア・ウクライナの影響	—	97	97	△29

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・ MS&ADホールディングス、持株会社 (＝MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
- ・ MS&AD (＝MS&ADインシュアランス グループ)
- ・ 三井住友海上、MS (＝三井住友海上火災保険(株))
- ・ あいおいニッセイ同和損保、AD (＝あいおいニッセイ同和損害保険(株))
- ・ 三井ダイレクト損保、MD (＝三井ダイレクト損害保険(株))
- ・ 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (＝三井住友海上あいおい生命保険(株))
- ・ 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (＝三井住友海上プライマリー生命保険(株))
- ・ MSIG 明台 (＝ MSIG Mingtai Insurance Co.,Ltd)
- ・ MS Amlin (＝ AUL、AAG、AISE、ACSを主とする各事業の合計)

AUL(＝MS Amlin Underwriting Limited)

AAG(＝MS Amlin AG)

AISE(＝MS Amlin Insurance SE)

ACS(＝MS Amlin Corporate Services Limited)

「グループ修正利益、修正純資産、グループ修正ROE」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入・戻入額 - その他特殊要因（のれん・その他無形固定資産償却額等）+ 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産（期初・期末平均）

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS & ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/ja/ir/contact.html>